



暗唱音読朗読会

今週から来週にかけて、お昼の校内放送にて、暗唱音読朗読会が行われています。詩・漢語・俳句・小説の冒頭などを暗唱し、日本語の文章表現やリズムに親しむことを目的としています。昨日5日(月)は、一年生が「干支」や「七草」の暗唱発表をしていました。この「暗唱」ということを「覚える」行為に感じてしまうと、中々暗唱するのは難しくなってきます。

私事ですが、高校時代の夏休みの宿題に百人一首を覚えるという宿題がありましたが、私は「暗記」ということに苦手意識を覚え、心が百人一首をスルーしてしまいました。しかし、数年後、百人一首と再び出会うと、その意味や美しい描写に魅力を感じ、口ずさむようになり、自然と頭の中に入ってきました。これはどういうことかという、暗唱も繰り返し慣れ親しんでいくことで、結果的に自然に頭の中に入るようになるということです。これは、自分の好きな歌でも同様のことが言えます。好きな歌を車の中などで、何度も繰り返し歌っているうちに、その歌詞を覚えてしまうのと同じです。このように、自然と口にし、繰り返す中で覚えたものは、日常生活のふとした場面で出てくることがあります。このような中で出てきた言葉は、頭で覚えた「知識の言葉」ではなく、自分の内側から出てきた「言の葉(ことのは)」となって、その人の表現力になっていきます。こういう美しい日本語の力を身に付けていくことが、人生を豊かにしていくのです。

なお、暗唱音読朗読会ですが、6日(火)が2年生、7日(水)が3年生、13日(火)が4年生、14日(水)が5年生、15日(木)が6年生となっています。全校みんなで日本語の美しい表現にふれたいと思います。お子さんが何を暗唱したのか、おうちでも話題にされてください。



学校百景 その⑨：お日様広場の花壇

学校の裏庭のお日様広場には、3年生の花壇に花文字が見られます。これは、3年生担任の今村先生が、以前帯西で勤務していた時に、子供たちと花文字で花壇を彩った経験がきっかけになっています。3年生の子供たちに



花壇に花文字ができることを伝えると、子供たちから「げんき」という言葉が出てきて、今の3年生の子供たちにぴったりな「げ・ん・き」という花文字が生まれたそうです。この花文字は、おそらくビオラが元気な春先までは見られると思います。